

犬猫の死亡原因・交通事故が依然として2番目に

5月11日から5月20日は「春の全国交通安全運動」実施期間

アニコムが「どうぶつ健保」のデータをもとに、犬猫の死亡原因について調査を行ったところ、犬猫ともに「事故」の占める割合が高く、2番目であることがわかりました。

犬の「事故」は散歩中や自宅から出ていってしまったことによる交通事故が大半を占め、猫の「事故」の多くは、交通事故および高い所からの落下によるものです。また、猫の「感染症」は、屋外での他の猫とのケンカや接触が原因であることが多くなっています。

獣医療の発達、飼い主のペットの健康に関する意識の高まりから犬猫の長寿化が進み、癌による死亡が増えた反面、飼い主の不注意による事故での死亡が依然として多いことから、再度、飼い主の責任を見つめ直す必要があるといえそうです。

大切な家族の一員を危険から守るためには、犬の散歩時には必ずリードを使用する、室内でもリードやケージ等を利用し、勝手に外に出ないよう気をつけることが大切です。

また、猫の場合でも室内で飼育するのが望ましいといえるのではないのでしょうか。

犬の死亡原因

死亡原因	割合
悪性腫瘍（癌）	13.2%
事故	12.6%
感染症	8.2%
呼吸器疾患	6.6%
消化器疾患	6.3%
神経疾患	6.1%
循環器疾患	5.0%
肝疾患	2.9%
泌尿器疾患	1.8%
内分泌疾患	1.8%
その他・不明	35.5%

猫の死亡原因

死亡原因	割合
感染症	20.9%
事故	11.6%
泌尿器科疾患	9.5%
循環器科疾患	8.3%
悪性腫瘍（癌）	6.9%
呼吸器疾患	3.6%
肝疾患	3.0%
消化器科疾患	2.4%
神経疾患	1.5%
内分泌疾患（糖尿病）	1.5%
その他・不明	30.8%

2005年12月1日～2007年3月31日に「どうぶつ健保」死亡解約の手続きをした犬380頭、猫335頭のデータを集計